

さんぽく南・さんぽく北小学校統合合同検討会（第2回）会議録（要旨）

【9/15 さんぽく会館】

参集者：29名

小学校PTA代表16名、保育園父母の会代表4名、区長連絡協議会役員5名、学校4名

- ・開会
- ・教育長あいさつ
- ・検討

- 教委 教育委員会の考え方を話したい。両校の比較では施設の面積・教室数等に大きな差はない。災害についての備えでは、津波に対しては標高、建物の高さ、合わせた高さで差はないが、海から近い遠いということで南の方が安全か。風水害のハザードマップでは、さんぽく北の場合は大川の氾濫で床下浸水等が危惧されている。また、川の反対側（校舎北側）が土石流の危険がある。さんぽく南は裏山のがけ崩れ、土石流の危険というような表示がされている。校舎はさんぽく南が建設年度が新しく、ランチルームが設置されており、木のぬくもりのあるさんぽく杉を活用している。登校のスクールバスについては、どちらの学校を使用する場合でも今現在徒歩で通学している児童がスクールバスになりほぼ同じような形態で、経費的にも同じと考えている。前回の会議で「有識者の意見を」という話があり、学校長を経験された山北のことをよく知っている10名の方にも意見をいただいた。教育委員会としては統合形態については両校を一旦閉校し、新しい学校としてスタート。校舎については現在のさんぽく南小学校を使いたいと提案する。
- 参加者 教育関係者以外の横断的な各部署からの意見はどんな内容だったか。学校は今後地域における大きな存在、地域の拠点になるわけなので、例えば自治振興、産業、観光といった分野の意見がどんなだったかお聞きしたい。
- 教委 特にそういった様々な方の意見は聞いていない。
- 参加者 今後もそういった横断的な意見や話し合いや会合というのはないと考えて良いのか。もしくはこの会がそれにあたるわけか。
- 教委 この会でご検討いただきたい。
- 参加者 閉校した校舎の用途、山北地区における公共施設の配置、通学の流れなど、もう少し広い視野でものを見た場合の対比比較する資料がない。地域のランドデザインを考えた統合でないと。平成15年度の統廃合のその後、閉校跡地の利用がまったくなされないまま今日に至っている。そういったところについての市としての考えはあるか。
- 教委 今、目の前にあるのは保育園の問題とか、そういった関係の話は検討できるかもしれないが、大きな目で検討する期間もないと考えている。
- 参加者 教育関係有識者の方で作られた統合の計画自体が、地域とかい離している。一保護者として考えれば南小学校の方が木造で新しいというのはよくわかるが、今後5年10年先の保護者、あるいは地域の皆さんが小学校がどっちにあった方がいいか、そういったところまで考えて、想像して議論がないと地域そのものがダメになると思う。
- 教委 小中学校の望ましい教育環境整備検討委員会は学校関係者2人、社会教育、郷育関係者、公募による委員、その方々から答申をいただいた。それを尊重して教育委員会が計画策定し、それに基づいて今提案している。廃校閉校になる学校の跡地利用も同時に考えていかなければならない。合同検討会で様々な案を出し合う中で、教育委員会としての方向性を提案させてもらったのでそれについて検討願いたい。
- 参加者 市としてのそういう総合的な計画の中に、学校というのがないのはおかしいのではないか。
- 教委 まちづくりという大きい構想まではいかないかもしれないが、これから学校を核として地域づくりもしていかなければならないので、両地区の皆様方からまず意見をいただきたい。
- 参加者 この合同検討会こそが大きな責任を持たねばならない。今の感情だとか、一保護者としてのみならず、大所高所に立ったものの見方をして決めていかないと選択を誤ることとなる。

- 参加者 一保護者として子どもの安全が第一で、保育園が統合する場合は、その場に待機していれば安全というのでにじいろ保育園に統合してほしい。小学校の場合も避難する時間を考えると南小学校に統合して、空いたおおぞら保育園は学童保育所に使えるのではないかと。北小学校は中学校の部活動の場所として使えるのではないかと想像する。
- 参加者 北小学校と山北中学校のお互いの関係は望ましい教育環境にあたるのではないかと。備品の貸し借りや小学校中学校合同の避難訓練、また放課後クラブの際、中学校のバスで小学生と一緒に帰るといったこと。北小学校が空き校舎になると、一緒にあるのに一つは廃校、一つは中学校という姿は望ましくないのではないかと。
- 参加者 にじいろ保育園で保護者からアンケートを取った。統合するのかもしれないのか、それすらわからない保護者もたくさんいる。会議の内容等も随時報告してほしい。子どもが安全に学校生活ができる、複式ではなく同等の教育ができるのかは一番だけれど、大人の利害関係で決めて欲しくない。子どもたちの実際の意見、子どもたちはどう感じているのか。今後の交流の仕方、統合した時のギャップを無くすことについての考えはどうか、などの意見が出た。
- 参加者 減価償却の耐用年数が木造22年、RC47年について詳しく説明を。
- 教委 あくまでも減価償却ということで資産の耐用年数を掲載した。年数がたてば朽ちるとかいうものではない。
- 参加者 統合後の最長通学時間はどのくらいか。
- 教委 今年4月時点のスクールバスの運行に基づく登校時の所要時間では、雷からさんぼく北小学校までは33分、浜新保からさんぼく南小学校までは29分です。
- 参加者 中学校統合の際も皆で知恵を絞りながらやってきたものと思っている。本当に教育というのはこうあるべき、今はこうだが将来はこうなると良い、このあたりを真剣に考えることで、どちらの場所が良いとか、ものの仕組みとかいうのは段階を踏んで結論が出ると考えている。
- 参加者 にじいろ保育園のアンケートで、例えば自分の子どもが中学校小学校に通うことを考えた保護者の意見がある。一例でいうと部活動が終わった後に小学校の運動会にあるいは文化祭等にそのまま徒歩で行けるとか。そういった細かなことについてもふれている貴重な意見集がここにある。こういった声を吸い上げる方法は何かないか。
- 教委 代表として集まっていたので、意見の吸い上げをして今日お集まりいただいたと受け止めている。
- 参加者 今後の10年先を考えた場合、地域のランドデザインと合わせて考えると大いに北小学校であるべきだと思う。通学でこれから雷、山熊田の子どもたちはさらに長い距離を、さらに長い時間を登下校に費やすことになるのだと思うとさんぼく北だろうと思う。いろんな選択肢を出した中では、さんぼく北の方が有利なのではないかということまでさんぼく北PTAでは話し合いをした。
- 参加者 さんぼく南小学校でも話し合いはしたが、全体で意見をまとめてきたわけではなく、個人の意見を持っていこうと話を進めてきた。先のさんぼく南小保護者の意見に賛成だし、さんぼく北小の保護者の意見にもああそうだなと思う。両校からのいろんな意見が出てくる中でビジョンが出てくると思う。
- 参加者 子どもがこれから少なくなるし、保護者にすれば保育園はあっち、小学校はあっちと非常に面倒くさい。安全面を考えればみんな一緒の方がいい。先のことを考えて統合とかを考えて欲しい。いずれは一つになると思う。

- 参加者 安全面とか様々な意見を聞き、正直どちら良いか迷う。大川谷小学校を卒業したので隣に中学校があるという環境の中で、実際中学生を意識して自分は将来こうなっていくということを、幼いながらに意識をすることができていたと思う。さんぼく南小学校に入ったことがないので木のぬくもりのある教室というのを体験したことがない。そういう環境で勉強ができることもとても良いと思うし、また生活の一部に中学校があるというのも教育の環境としていいと思う。子どもたちの環境適応能力はすごく、「広さ」というのは選択肢の一つの中では小さいものである。
- 参加者 さんぼく北小学校も新校舎は木造なので、木のぬくもりと言われるとさんぼく北小学校もそういうことはある。
- 参加者 お互いの校舎を知らないままで話をしてもどうなのだろうか、見学会があれば良い。
- 参加者 仮にさんぼく南小学校が統合新校舎になった場合に、例えば府屋の小学生はスクールバスで通い、中学校に入ると今度は逆に徒歩で通わなければならないということになるのか。
- 教委 それは他地区においても同様のことではある。
- 参加者 平野部の住環境と教育施設が整ったところと、山間部の移動は違うと思うのでその辺は実際の通学する環境を、想像力を持って考えなければならない。
- 参加者 保育園の時にバス通園していて小学校にあがると徒歩という形なので、一概に上にあがったから歩くとかバスに乗るとか、そんな考えは私のところではない。
- 教委 どうやったら結論が煮詰まっていくのか。子どもたちの交流を早くやっていかなければ良い統合が出来なくなる。スピード感も持って検討していかなければならない。
- 参加者 交流は統合の議論が進まなくてもできる。話すべきところは話し合っ、お互い理解するところは理解することが大切なのではないか。資料として通学時間の想定されたものがあると良い。1時間半通学に時間がかかるというのはかなり遠距離になる。
- 教委 見学会を学校と協議し案内する。その後この会をもう一度開くということによろしいか。
- 出席者了解する。
- ・ 閉会